



沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

学 報

第63号



* 理事長・学長メッセージ	2
* キリスト教教育活動 ～宗教部～	3
* 朗読劇「戦世に生きて 一実少年の沖縄戦」	4
* 国際交流活動	6
* 学生支援	7
* 学校行事	8
* 部・サークル紹介	9
* 沖縄キリスト教学院大学・大学院トピックス	10
* 沖縄キリスト教短期大学トピックス	12
* 大学・短期大学【共催】	14
* 平和学習 ～沖縄キリスト教平和研究所～	15

CONTENTS

* キャリア支援	16
* 2016年度 主な図書館行事	17
* 退職教員・採用教員メッセージ	18
* 地域貢献	20
* 学内環境整備	22
* 同窓会・後援会	22
* 寄付感謝報告	23
* 2016年度人事	23
* 2015年度決算報告	23
* Open Campus 2017	24
* 大学見学	24

2016 年度
キリスト教活動年間テーマ

キリストにあって互いに仕えよう

— Serving one another in Christ —



学校法人 沖縄キリスト教学院

理事長 神山 繁實

理事長あいさつ

新しい年を迎え、新たな決意をもってこの時を迎えておられることと思います。昨年いろいろな言葉が流行しましたが、「子どもの貧困」という言葉が新聞紙上を賑わすようになりました。子どもの貧困は、経済的に貧しいと言われている開発途上国の問題にとどまらず、先進諸国の問題にもなっているのです。子どもたちが将来の社会と世界を担い、生きるに値する命と国家をつくる潜在的な能力を秘めているといっても過言ではありません。特に、70 歳以上の人は、幼少期に深刻な飢餓の経験をした人も少なくないと思います。現在、75 歳以上の人は、初めて意識したことが「飢餓」であったであろうと思います。飢餓が社会的風潮になることは「食糧の飢饉」の問題であるよりは、心の問題であると考えられるのではないのでしょうか。沖縄は「ユイマール」精神が旺盛なので、県外程深刻ではなかったかもしれませんが、私は、幼少の頃、兵庫県(神戸市)に住んでいたのでこの都市部の小さな生命にもろにかぶさってきました。その最も大きな原因は、日本の軍国主義の辿るべき道筋であったのは確かです。現在ではこの悲惨な状況は開発途上国を直撃し、社会的弱者の子どもたちの「こころとからだ」を蝕み、貧困の連鎖の予備軍に否応なしに押しこまれるのを防がなければならないように思います。このような経験をした子どもたちは、当然のごとくかつて大人が辿ったのと同じ道を歩む危険性があるからです。どこかで連鎖を断ち切っておかなければならないのです。

ここ何年間は、北部訓練所や辺野古新基地建設、高江を巡る戦いがあり、これからも継続されていくでしょう。訓練所と言えば、聞こえはいいかも知れませんが、実戦を想定しての訓練なので、失敗は許されないという実態があります。2004 年に起きた沖縄大キャンパスへのヘリコプター墜落事件の一件を見ても日本が主権をもった独立国としての行動が取れない状態だったように映ります。本学の教育研究に関することが、本学の「建学の精神」に合致しつつ、本学に学ぶ学生の皆さんが、より普遍的市民として成長できるように、皆様方に特段のご配慮をお願いする次第であります。さらに、本学院の構成員の皆さんが本学の「建学の精神」に合致して前進できるようにお祈りします。



沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

学長 友利 廣

学院創立 60 周年を迎え新たな飛躍の決意

地方を拠点とする小規模私立大学の定員割れ状態が 2000 年代中頃から 4 割ラインに達し、この傾向に歯止めがかからない状況が続いています。文部科学省も重い腰をあげて、大都市圏に集中する大規模私立大学の入学定員充足率を下方修正し補助金の不交付とリンクする「私学助成不交付基準の厳格化」を導入しています。これにより大学進学者の地方私立大学への回帰を促すと同時に、教育の質保証を実質化したいとする文部科学省の意図が窺われるが実効性が問われます。

さて、沖縄キリスト教学院は創立 60 周年を間もなく迎えます。学院にとって飛躍の年にすべく決意をしているところですが、まずは学院創立の原点である「建学の精神」の継承発展を誓い、私立大学を取り巻く激しい環境変化に立ち向かえる機動的な組織体制を構築したいと思っています。次に、大学のレゾナードルとも言える有為な人材を育成して、実社会を舞台に専門性を駆使しながら物事に果敢に挑戦できるチャレンジャーを世に送り出したいと思っています。最後になりますが、新たな発展に向けて西原現キャンパスの拡大整備事業を推進し新学科等設置に向けた改組転換事業を着実に実現し、社会的要請に応えていきたいと思っています。

キリスト教教育活動 ～宗教部～

前期・後期キリスト教週間 講演会

「沈黙の中で助けを求める声に気づくこと」

前期：2016 年 4 月 18 日～22 日
後期：2016 年 10 月 24 日～28 日

宗教部長 金 永秀

前期キリスト教講演会では、本学卒業生であり、県内外で活動されている高里鈴代氏(強姦救援センター・沖縄 REICO 代表)をお迎えしました。米軍による沖縄女性に対する性暴力の実情や、被害者が声を上げられないように強いる社会的構造と女性達の「沈黙の声」に耳を傾け、取り組む大切さが語られました。

後期キリスト教講演会では、生活困窮者やホームレスの人々への支援を精力的に行っておられる奥田知志氏(日本バプテスト連盟 東八幡キリスト教会 牧師)をお迎えしました。「助けて」と言えない社会状況と精神状態にある人々への理解を示すこと、手を差し伸べることを逡巡しない姿勢を聖書から教えられました。

本学のキリスト教週間では、学生による企画プログラムも実施しております。前期では、イスラエルで食べられている聖書にまつわるお菓子を学生たちが作り、試食しながら歓談の時を持ちました。また、後期には学生宗教委員会 HOPE による賛美コンサートをを行い、主の恵みに満ち溢れた時間を過ごすことができました。



高里 鈴代 氏(前期キリスト教講演会)



奥田 知志 氏(後期キリスト教講演会)

2016 年度サマー聖書キャンプ報告

「沖縄でキリストを仰ぐ」 2016 年 8 月 24 日～26 日

8 月 24 日から 3 日間、本学学生 5 名、教職員 4 名でサマー聖書キャンプを実施しました。当初、伊江島でのキャンプを予定していましたが、台風接近の影響により、沖縄本島内のプログラムへと変更しました。1 日目は開会礼拝の後、基地移転問題を考えました。嘉数高台から普天間基地、辺野古新基地建設現場を訪れ、名護署での抗議活動に参加しました。又、夕食後に本学の「建学の精神」について宗教部長からレクチャーを受けました。2 日目は沖縄国際大学の鳥山淳教授より普天間基地とヘリ墜落跡地の案内をしていただきました。その後、平和祈念資料館へ行き、夜にはパーベキューと花火をして懇談の時を持ちました。3 日目は、キャンプを通して考えたことを参加者全員で共有し、閉会礼拝を持って終了しました。

今回のキャンプでは、沖縄戦を経て現在の基地問題があること、そして新基地建設につながるという沖縄の歴史の流れに重点を置いたプログラムで構成しました。戦争に傾く現状に抗議する人々を間近に見て、学生たちは自分たちの姿を見つめ直し、沖縄の現状を深く多角的に考える良い機会になったと思います。



アジア・フレンドシップ・アワー

沖縄の韓国教会を訪ねて

2017 年 2 月 19 日

今年度のアジア・フレンドシップアワーは「韓国のキリスト教と、沖縄の韓国教会について学ぶ」をテーマに掲げ、学生 6 名、教員 2 名で在日大韓基督教会 沖縄教会(宜野湾市大山)の礼拝に参加しました。沖縄在住の韓国人とその家族が中心の教会です。礼拝はすべて韓国語で行われており、最初は学生達も戸惑っていましたが、宗教部長の同時通訳により説教や祈りの内容がよく理解できました。また、学生と宗教部長が器楽による賛美歌を演奏し、喝采を浴びる場面もありました。

礼拝後はキムチや韓国料理をいただき、朴(パク)長老と郭(カク)牧師より教会の出発と今に至る歴史と現状、これからの教会の宣教計画について伺いました。米軍所属の韓国クリスチャン軍人の祈禱会から教会が始まったこと、最盛期は約 300 名の教会員がいたこと、地域への奉仕として学童保育を模索している一方で、教会学校担当者の補充の必要性がある等のお話を聞くことができました。日々の礼拝だけではなく、積極的に地域に根ざそうとする姿に感銘を受け、良い学びの時となりました。



72年前のあの日から、僕の目に映る沖縄は変わっていない。

朗読劇「戦世に生きて —実少年の沖縄戦—」は、本学「沖縄キリスト教平和研究所」所長であり、自らの戦争体験を語りつづける大城 実先生の半生を学生たちに追体験してもらい、戦争のことを自分の問題として考えてほしいとの思いから、学院オリジナルの劇として制作された作品です。

「母さん、僕ね、もう少し大きくなったら絶対に少年航空兵になって、あの飛行機に乗るよ。そして鬼畜米英をバツバツと打ち破るんだ!」

1944年、兼城村(現・糸満市)に住んでいたミノルは、当時の少年たちの多くがそうであったように軍人に憧れ、立派な兵士になることを夢見る軍国少年でした。しかし10月10日の大規模な空襲があった日から、ミノルの夢と純粋な心は徐々に壊されていきます。当時10歳のミノルの目に映った戦争とは一体どんなものだったのか。そして、のちに「十・十空襲」と呼ばれるあの空襲から72年が経った今、ミノルは何を語るのか。



大城 実先生と、先生のお母様の著作をもとにして作られた本作は、当時の人々が戦争を意識するきっかけとなった「十・十空襲」の日に寄せて、2016年10月17日の月曜礼拝内で初めて上演されました。戦争体験者として、またキリスト者として学院で労してこられた大城実先生の体験を本学の学生が演じることで、新たな形での継承を試みた作品ともなっています。

原作 大城 実「一軍国少年の沖縄戦とその後」 大城 順子「いくさゆにいちてい」
表現指導 上原 明子(総合教育系 教授) 脚本・演出 下地 優貴子(宗教部 職員)
音楽 ピアノ 下地 優貴子/三線 神山 怜奈



モデルとなった ミノル少年
大城 実 所長
(沖縄キリスト教平和研究所 所長)

朗読劇の「主人公」にされて

思いもよらぬことであった。突然宗教部の下地さんが平和研究所に来て、私の「一軍国少年の沖縄戦とその後」の一部を「朗読劇」にして学生たちに演じさせたいと申し出て来た。戸惑いながらも同意してしまった。しかし新任の下地さんの意欲に期待した目に狂いはなかった。彼女は宗教部の学生たちをよく指導し、共に議論を重ねながら私の自叙伝の訴えたいことを余すことなく表現してくれたと思う。

「戦争は人を人でなくする。」下地さんと学生たちの表現に私自身感動しました。ありがとうございます!

カンボウ ヌ フェ ヌクサー
艦砲ぬ喰え一残さー 大城 実

演者からのメッセージ



玉城 里奈 (英語コミュニケーション学科 4 年次) : ミノル

朗読劇がそこに存在する一人ひとりの想像力を刺激して鍛えるということ、また声で表現することの楽しさを知りました。観客の皆さんに戦争の悲惨さを伝えられたらいいな、と思うと同時に、朗読の面白さを感じてもらっていただけたら嬉しいです。



眞榮田 舞 (英語コミュニケーション学科 4 年次) : 母

戦争体験者の高齢化が進み、今後は私たちが戦争の悲惨さを後世に語り継いでいかなければなりません。今回の朗読劇を通して、改めて、積極的に平和について学ぶ意識を持ち、歴史を知ることの大切さを感じました。



新垣 美郷 (英語コミュニケーション学科 4 年次) : エイコ

私は姉のエイコ役をさせていただきました。絶望的な状況にいる弟ミノルとお母さんを、頑張って生きよう強く説得する場面を通して、姉の視点から当時の状況・心境の追体験ができました。



森本 彩 (英語コミュニケーション学科 4 年次) : 日本兵 など

戦争を体験したことのない私にとって想像力を動かさせて表現しても戦争体験者達の言葉の重みにはかないません。見た人にこの劇を通して、戦争は「人が人でなくなる恐ろしい事」である事が伝わるよう考えながら演じました。



阿波根 昌孝 (英語コミュニケーション学科 4 年次) : 村の男 など

朗読劇は演劇とは違い、内容の殆どを「声」だけで表現しなければならないので、台本を何度も読んで声の大きさや抑揚などを特に意識しました。この朗読劇を通して平和の大切さや歴史の継承について考えてほしいです。



仲村 仁志 (英語科 2 年次) : 看護兵

日本語が片言の看護兵を演じて、ミノル君に「戦争はいけない、人は皆仲良し」という事を言い聞かせることができました。この劇から、人々は仲良く生きていくべきだと改めて感じました。



山口 舞 (英語コミュニケーション学科 4 年次) : 大学の先生、医者

朗読劇をすることは初めての経験で、どんなものかイメージができていまま練習を始めました。演劇とは違い、声の強弱、速さで表現することの難しさ、表現できたとときの達成感を体験することができました。

学生の感想 — アンケートより抜粋 —

- この劇を見て、今まで聞いた戦争体験よりも、とても印象に残りました。
- 戦争を体験した人にとっては、私たちが日常だと思っている日々が違って見えているのだと知りました。
- しっかり自分の意見を表現し、沖縄の抱える問題に対して正面から向かっていかないといけないと感じました。いつまたこのような大惨事が起こるかわからないという状況で、「若いからまだいいや」とか「興味がない」で済ませてはならないと思いました。平和は私たちが作っていかないといけないと改めて思いました。
- 聞いているだけで情景が目の前に広がりました。戦争によって人が狂わされ、人間らしさを失い、追いつめられる様子がよくわかりました。
- せっかく、平和を大切にしている沖縄キリスト教学院に入ったのだから、もっと戦争と平和について学びたいと思いました。
- 朗読劇を見て、自分の中で何か「沖縄」に対する気持ちが強まった。辛い体験を話してくれた実先生に感謝します。
- 劇中で戦闘機が飛び回るシーン、ちょうどその時、米軍機がチャペル上空を通過しました。米軍機の騒音、振動が劇に臨場感を与え、タイムスリップしたような感覚を覚え、朗読劇に引き込まれました。



▲ 演者・会衆一同による賛美



▲ 足を失ったミノルへの姉心を語る新垣さん



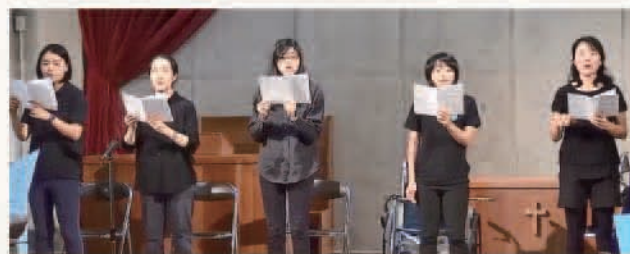
▲ 三線とピアノによる演奏



▲ 足を負傷したミノルを車椅子に乗せる様子



▲ 朗読劇を通してのメッセージを伝える学生たち



▲ 終盤の賛美の様子



▲ 大城 実先生との集合写真



脚本・演出
下地 優貴子
(宗教部 職員)

等身大の若者たちに寄り添う作品に

本学に務め始めた頃、突然、大城実先生が「勉強しなさい」と言ってお著作を私にくださいました。ご著作を読む中で、巻頭言に寄せられた山里勝一先生の「私は本作を読み終えて次の事を提案したい。劇作家の手に委ねてシナリオを書いてもらい劇化すれば、読んだ人達が『平和を作りだす人』となり、大城実先生の戦場体験がトラウマとしてではなく、信仰を全てのの人に伝える喜びの証しになることを願っている」(一部省略)という言葉が目止まった途端、私は自然と手を組み「このことを成すために私を用いてください」と神に祈っていました。演じる学生、観る学生たちの等身大の姿や思いに寄り添うことを大切にして作り上げた本作が、様々な思いの中で沖縄を生きる若者たちを理解し、これからの沖縄について考える一助になれば幸いです。

学生宗教委員会 HOPE について

本学で毎週月曜日にされる礼拝の司会や、礼拝音楽の演奏、キリスト教行事の企画・運営を行う学生組織が「学生宗教委員会 HOPE」です。礼拝の演奏では、ピアノ・オルガン等の楽器の操作を学んで演奏する学生もいます。また、キリスト教行事ではコンサート、演劇、料理などのプログラムを行うため、学生たちがそれぞれの特技や個性を生かして活動しています。キリスト教信仰に立つ、本学ならではの大切な学生組織です。クリスマスなどではない学生も参加歓迎です。今後も様々な学生に関わってみたいと思います。



▲ 演劇「善きサマリヤ人」

海外協定校カウアイ・コミュニティ・カレッジ(米国ハワイ州)より、ブライアン山本教授がご来学

2016年5月23日



(前列左から) 友利学長、中原前学長
山本教授、ウェンディ夫人
(後列左から) 柳田准教授、上原交流センター長

海外協定校「ハワイ大学カウアイ・コミュニティ・カレッジ(米国ハワイ州・以下KCC)」より、ブライアン・山本教授とウェンディ夫人がご来学されました。KCCは、本学と20年以上の交流がある協定校のひとつで、山本教授はこれまで海外研修や長期留学でKCCを訪れた多くの学生を温かく迎えて下さいました。来学当日は、柳田正豪准教授によるキャンパスツアーにて本学施設をご見学いただきました。続いての「KCC研修・留学説明会」では多数の学生参加があり、山本教授よりKCCやハワイの魅力について説明がなされました。その後、友利廣学長、中原俊明前学長、上原明子国際平和文化交流センター長を交えた昼食懇談会が設けられました。山本教授と前学長は旧知の中であり、日本料理に舌鼓を打ちつつ、思い出話に花が咲きました。「本当に充実した一日を過ごせた事に感謝します。」と山本教授よりお言葉を頂戴しました。

台湾研修

2016年8月21日～9月3日



この研修は、協定校の「長栄大学(台湾台南市)」を訪問し、地理的特性が沖縄と類似している台湾の歴史・文化・言語を学ぶことを目的としています。特徴的な「英語による中国語学習」をはじめ、現地学生との交流など、多彩なプログラムが用意されています。「授業が楽しかった」「ホームステイで、生の台湾人の生活に触れることができた」「台湾のあたたかさに触れる事ができた」といった感想が多くあり、参加した学生たちの満足度が極めて高い研修となりました。

ハワイ研修・海外幼児教育研修

2017年2月12日～26日



本研修では、協定校「カウアイ・コミュニティ・カレッジ(米国ハワイ州)」へ訪問し、英語のトレーニングはもちろんのこと、現地学生との交流、ハワイ伝統文化の体験学習もあり、ハワイのおもてなしに触れながら、他者理解力を身につけます。

人文学部英語コミュニケーション学科・英語科の学生が参加する「ハワイ研修」では、ハワイの観光ビジネスについて学び、保育科学生の「海外幼児教育研修」では、ハワイの幼児教育施設を見学します。

参加した学生からは「全て英語での授業は刺激的だった」「ハワイの子どもたちとの触れ合いが楽しかった」等の感想がありました。研修参加後、ハワイへの関心を深めて留学を決意する学生もあり、学生の「世界」を広げるプログラムとなっています。

ix 国際交流友の会「沖縄の歴史・文化学習会」

2016年7月2日



在学生を対象に、沖縄特例通訳案内士資格を有する本学職員がガイドを務め、「琉球王国時代の国際交流に触れるツアー」と題した学習会を実施しました。まず、中国福州の伝統技法を用いた本格的中国式庭園「福州園」、儒学の祖や道教の神を祀る「孔子廟・天妃宮・天尊廟」を訪れ、沖縄に色濃く残る中国文化の影響について学びました。次に「首里城公園」にて、世界遺産や城内を見学しました。地元に住んでいると観光名所や史跡を巡ることは意外と少ないものです。参加した学生にとって、「沖縄」の歴史や文化を再発見する有意義な学習会となりました。

中原前学長より、寄付金贈呈

2016年6月1日

中原俊明前学長が友利廣学長を訪問され、200万円のご寄付をいただきました。中原前学長は、4年間(2012年4月～2016年3月)の重職を務められました。中原先生は「奨学金と創設された硬式野球部の活動費として役立てほしい」と語られました。このたびのご寄付を心より感謝申し上げます。



(左から) 友利学長と中原前学長

ライオンズクラブ国際協会様より外国人留学生へ奨学金贈呈

2016年7月19日

「在沖縄外国人留学生奨学会」奨学金贈呈式がライオンズクラブ沖縄リジョン様の事務局にて執り行われました。今年度は人文学部より、インドネシア出身の学生2名が奨学生として採用されました。贈呈式においては、理事長の識名安信様をはじめとした委員各位より、外国人留学生への激励がありました。ライオンズクラブ国際協会様の理念である「奉仕の精神」は、本学の「建学の精神」と共鳴しており、留学生在がこの栄誉を励みとし、充実した学生生活を送ることを期待しております。



りゅうぎん国際化振興財団助成事業「第2回 Pembroke Players Japan Tour 沖縄公演『ロミオとジュリエット』」開催

2016年9月17日

昨年度に引き続き、イギリスの名門ケンブリッジ大学ペンブルック校より学生による劇団ペンブルックプレイヤーズ(Pembroke Players)を招聘し、大劇作家のシェイクスピア劇を本学チャペルにて上演いたしました。

今年は、シェイクスピアの没後400年目にあたる記念公演であり、また誰もが知る『ロミオとジュリエット』を本場のイギリス英語で観覧できるとあって、学内外から約250名の方々にご来場いただき、大盛況となりました。

また、講演に先立ち、演劇のアクションから英語を学ぶユニークなワークショップ「ペンブルックプレイヤーズのステージ&英会話」が開かれ、参加者は楽しみながら英語に触れることができました。その他、劇団員は本学学生・教職員宅へホームステイするなど、双方にとって貴重な国際交流の機会が展開されました。



奨学金授与式の実施

前期：2016年7月11日／後期：2016年12月12日

本学では学業に専念し、大学生生活を円滑に送れるよう、各種学内奨学金を整えており、受給採用になった学生を対象に、前期、後期ごとに「奨学金授与式」を実施しています。授与式は仲里朝章記念チャペルにて、奨学金のご寄付を頂いている関係団体及び諸氏をお招きし、執り行われました。

式典においては、採用となった学生らへ友利学長から証書が手渡され、上原明子学生支援部長からの激励の言葉がありました。学生にとって、奨学生として採用された栄誉と感謝を再認識するとともに、今後の学びに向けての引き締めとなる機会となりました。



学習支援センター

高い作文能力を身につけるためには、まずテーマについて深く考えることができる能力、そして考えたことを表現しまとめる能力、その両方を培うことが求められ、どれも一朝一夕でできることはありません。就職活動で小論文対策が必要な学生の皆さんは、できるだけ早期に学習支援センターを訪ね相談して下さい。

学問全般についても、実際のところ、自立した学習者として能動的に学問に取り組むようになって始めて学問が可能となるということがあります。真剣に学問を志す者にとって、方法論も極めて大切なのです。気軽に学習支援センターに立ち寄って下さい。

・キリ学祭

第 52 回キリ学祭「Share moments for Forever memories」

2016 年 11 月 12 日、13 日

「キリ学祭を終えて」

英コミ 2 年次 (2016 年度学生会長) 伊良波 結乃

第 52 回キリ学祭のテーマは、多くの人と最高の時間をシェアしたい!という意味を込めて「Share moments for Forever memories」にしました。私たちの世代では歌やダンスを中心に全国で活躍する方が多く、私はその活躍をさらに多くの方に知っていただきたく、出演者を同世代にこだわりました。そのためラッパーの Rude-α やダンスチーム CHURROS、芸人の KY デンジャラスに出演していただき、若者のパワーで輝くキリ学祭になりました。フィナーレにはきいやま商店が熱いパフォーマンスでキリ学祭を盛り上げてくれ、テーマ以上に最高の時間を多くの方とシェアできて本当に嬉しく思います。また、千代田プライダルハウス様のご協力のもと素敵な Ms.& Mr. の演出ができたり、地域の方々や協賛してくださった企業様、スタッフ、出演者の皆様がいたからこそ最高のキリ学祭を作りあげることができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ご支援ご協力ありがとうございました。



・新入生オリエンテーション

●学院大学

2016 年 5 月 18 日 (水)～20 日 (金)

恒例の新入生オリエンテーションキャンプが、5 月 18 日 (水)～20 日 (金) の 3 日間、渡嘉敷島で行われました。2 日目から短大英語科・保育科も合流し、学科の垣根を越えて互いの貴重な時間となりました。金城重明先生の講話を始めとして、平和学習では集団自決跡地に足を運ぶことで、戦争と平和を考える時間となりました。併せて、学業とアルバイトの両立や目標の設定等学生生活にとって重要なことを共有しました。その他に、海洋研修および渡嘉敷島内を歩く時間も確保でき、島の田園風景や海、離島の豊かな自然を満喫できました。さらに、キャンドルの集いでは学生会の皆さんの尽力のおかげで、素敵なダンスや笑顔溢れる時間となり、学院生活の大事な想い出となりました。

●短期大学

2016 年 4 月 9 日 (土)

4 月 9 日 (土) に新入生 (英語科 89 人、保育科 109 人) を迎えての新入生オリエンテーションが学院キャンパス内で行われました。このプログラムは、「建学の精神」「アカデミック」「人間関係を深める」を 3 つの柱として実施しています。午前中のプログラムでは本短期大学第 3 代学長金城重明先生の講演を通して「建学の精神」の理解を深める時となりました。その後、学科ごとの「アカデミックオリエンテーション 1」を行い、お昼はアドバイザーグループ毎に別れ、親睦を深めた楽しい昼食の時を持ちました。午後のプログラム「総合教育系科目の説明」において、教養教育を学ぶ意義および科目についての説明があり、アカデミックオリエンテーション 2」で、英語科は先輩学生からの学業や学生生活について話を聞く機会がもたれ、保育科は実習についての説明が行われました。朝から夕方迄の間に凝縮したプログラムが行われ、今後、各学生の皆さんが自己実現に向けて大きく育つことが期待できる新入生オリエンテーションでした。



・スポーツデー

2016 年 4 月 16 日 (土)

新入生歓迎スポーツデーが開催されました。それぞれがお揃いの T シャツを着て、アドバイザーグループ対抗のパレーボールの試合は、大変盛り上がりました。敗者復活戦は、5 色綱引き。負けたチームとは思えないほどの気合いの入れよう。しかし、勝ち上がりせず敗退。決勝戦は、接戦を勝ち抜いたチーム同士の対戦となり、試合前には全員で円陣を組み、心をひとつにして試合開始。今年は、取ったら取り返すという緊迫したシーソーゲーム。延長戦までもつれ込み、優勝は最後まで粘りを見せた保育科のチームでした! 本来ならば歓迎されるはずの新入生でしたが、数名のパフォーマー (新入生) がスポーツデーを盛り上げてくれました。



本学には、スポーツや文化、語学、音楽など様々なフィールドの部・サークルがあり、充実したキャンパスライフを送ることができます。集団の中で「個」の力を発揮することを学び、社会性や自主性を身につけるサークル活動で、皆、楽しみながら大きく成長することができます。たくさんの仲間と一緒に学生生活を充実させてみませんか。

体育会系

- 硬式野球部
- バレーボールサークル
- バドミントンサークル
- フットサルサークル
- バスケットボールサークル
- ダンスサークル (HENE)
- スケートボードサークル

文化系

- 児童文化研究サークル
- スマイルースマイルー
- WLO (We Love Okinawa)
- ミュージック・アンサンブル
- コイノニア
- アニメ漫画研究サークル
- Buddies
- 茶道サークル



バレーボールサークル



茶道サークル

□ 硬式野球部

2015 年 6 月に創部された硬式野球部が、4 月 2 日の公式戦に初参加を果たしました。前回大会優勝チームを相手に見事な負けっぶりでしたが、スタンドには在学学生や教職員、また卒業生も応援に駆けつけ、一生懸命にプレーする選手たちに温かい声援を送っていました。今シーズン、全 16 試合で 1 勝も上げることはできませんでしたが、選手達はその悔しさの中で多くの事を学び、成長を続けています。来シーズンは念願の初勝利に向けて、チーム一丸となって頑張りますので、今後とも皆様の変わらぬ応援をよろしくお願いいたします。

今シーズンを振り返って



□ WLO サークル

本学には、地域の清掃活動を行うボランティアサークル WLO (We Love Okinawa) があります。このサークルでは沖縄のゴミの現状を訴え、美しい自然を残していけるよう活動を行っています。清掃活動を行う中で、サークルメンバーの仲も深まり、共に豊かな自然を守る大切さを実際に体験し感じることができました。2006 年 7 月から始まったこの活動は、2016 年度までに 96 回の活動を行い、1,541.6kg (第 43 回から集計) のゴミを回収してきました。大好きな沖縄の自然を自分たちの取り組みを通して守っていけるよう、これからも活動を続けていきたいと思っています。

～沖縄をきれいに 心もきれいに～



□ 児童文化研究サークル

私たち児童文化研究サークルは、みんな個性的で明るくとても楽しいサークルです。サークルの活動は、保育施設に赴きいろいろな色の手袋を使ったフィンガーアクション、人形が踊りだすボードビル、みんなの好きな物語の人形劇を公演します。公演だけではなくボランティア活動なども依頼され南は那覇、北は今帰仁村までも行きます。公演では子どもたちの笑顔を見ることができ、保護者や施設の方からは「ありがとうございました。」などの喜びの声をいただけます。地域と交流し、地域の方々からも感謝され保育者としてためになる経験が沢山できます。児文研と一緒に子ども達の笑顔のために頑張りたい人、大募集! です。

やりがいを共に感じよう!



教職課程

今年度、本学は文部科学省の教職課程設置大学実地視察を受けました。文科省の職員と委員が来学し、授業参観、施設見学、教員の質やシラバスの点検をはじめ、教職課程設置大学としての質を備えているのか確認しました。概ね高評価でしたが、なかでも教職スクリーニングに好意的な評価をいただきました。

本学では2年次終了時に、テスト・面談等を行っており、それに合格しなくては教職課程の履修を継続できません。厳しい基準を学生に課しているといえます。

そのせいもあり本学で教員免許を取得する学生は皆さん優秀です。厳しい教職課程の課題をしっかりとこなせる学生は社会からの評価も高く、就職活動にも強くて、難関の銀行、保険会社、旅行業などに就職を決めています。

今後も優秀な人材・教員を育てていきたいと思っています。

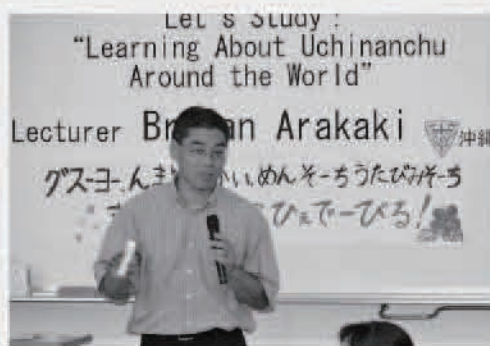


国際理解教育

世界のウチナンチュ大会への参加

世界に広がる沖縄県系人ネットワークは2017年現在、約43万人であると沖縄県から発表されています。2016年11月に5年ぶりに開催される本大会に、本学でも積極的に取り組みました。

米国(カリフォルニア州)より、ブライアン新垣氏親子、親戚が本学を訪問されました。ブライアン氏には、「世界のウチナンチュとしての生き方」を英語でスピーチして頂きました。ウチナンチュアイデンティティを確認するため父親の故郷である沖縄(西原町)に来県されたそうです。多民族国家の中で生きていく上で、自分が何者かを知ることは重要であり、50歳を過ぎたころから沖縄の文化に強く興味を抱き、言語、伝統行事に触れ始めているということでした。また米国における就職事情も併せて語って頂きました。



卒業生メッセージ



人文学部
英語コミュニケーション学科
2016年度卒

宮城 由希乃

夢を追い続けること

小学生の時から「英語を話せる大人になりたい」という小さな憧れを抱いていて英語を専門的に学んできました。中学生の時初めて渡米しお世話になったホームステイ先の家族を「いつか沖縄に招待したい」という想いから今では沖縄の観光を担う人材になりたいと考え、県内の観光業に就職することを決めました。在学中は留学に挑戦し、帰国後は「沖縄特例通訳案内士」の資格取得に励むなどチャレンジし続けてきました。資格試験が不合格で悔しくて泣いたこともありましたが、努力をしたならどんな結果でも立派な成果としてちゃんと残ります。皆さんも失敗を恐れず学生のうちにたくさん挑戦してください。

卒業生メッセージ



人文学部
英語コミュニケーション学科
2016年度卒

東江 奈緒

充実したキリ学ライフ

キリ学での4年間は、常に誰かから刺激をもらっていた日々でした。授業では今まで知らなかった新たな知識を学び、学校生活では友人の積極性に感化され、アメリカへの留学を決意しました。留学中は留学生団体の活動にチャレンジしていき視野を広げ、帰国後は就職活動に力を入れ、企業研究はもちろん人事の方にも積極的に質問をしに行ったりと、自分からアクションを起こす事に力を入れました。そうしたことで、希望の会社に内定をもらう事ができ、同時に自分自身も成長することができました。皆さんもキリ学での4年間を通して色々なことに積極的に挑戦し、充実した学生生活を送ってください！

☆学P 2016 沖縄リーグ

沖縄ファミリーマート主催「学P 2016 沖縄リーグ」に高崎ゼミのメンバーが中心となり参加しました。今年のテーマ「これから世界の掛け橋となる大学生が考えた新しい商品」として私たちは調理パン部門に挑戦しました。白焼きパンの中にタンドリーチキンとタルタルフィッシュフライを挟み、「ガブガブサンド」という食べ応えのある商品に仕上げ、県内7大学が参加する中、見事！販売上部門第二位を獲得しました。

商品開発から販売までを行う商品化の一連の流れを体験することができ、有意義な時間を過ごすことができました。この経験を今後の学生生活等に活かしたいと思います。



🕒 タイムカプセル開封式

2016年4月30日(土)16:00よりキャンパスの中庭において卒業生及び教職員によるタイムカプセル開封式が行われました。卒業から10年、思い出の詰まったカプセルには笑顔の詰まった写真や10年後の自分に託したメッセージなどがあり、ついこの間のような感覚に戻り、楽しかった思い出に大笑いし、甘酸っぱい恋話に胸がキュンとなりました。

とても楽しい時間を共有しました。卒業しても忘れず、本学を思ってくれる卒業生に感謝申し上げます。



「ひらめき☆ときめき サイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI」

精神障害者・回復者雇用の重要性 一医療・保健・福祉分野及び教職課程履修の上でー

期 日：2016年8月13日(土)

実施代表者：近藤 功行 人文学部英語コミュニケーション学科・大学院異文化コミュニケーション学研究科 教授

日本学術振興会委託事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」が7回目の採択となり、本学では、医療・保健・福祉分野を目指す高校生を対象にプログラムを開催しました。精神障害者就労支援「明りの家」所長 恵川龍一郎氏を招聘講師とし、精神障害者への理解を深める学習会を行いました。県内高校6校33名の生徒が受講しました。



※「精神障害者就労支援」「精神障害者」の用語については、定款どおり記載しています。

沖縄キリスト教学院大学大学院

2016年度(第9回)沖縄キリスト教学院大学大学院 講演会&ワークショップ

2016年11月5日に、本学大学院異文化コミュニケーション学研究科主催の講演会が行われました。今年度は桜美林大学専任講師のマルコス・ベネビデス氏をお招きして、タスクベース授業(Task-Based Language Teaching (TBLT))に関する講演及びワークショップを開催しました。ベネビデス氏はTBLT理論とその実践に関して広く知られている権威者であり、Pearson Longman 等から学術的に優れた書籍を多数出版しています。今回の講演は、それらのテキストに盛り込まれた情報が網羅された内容となっていました。講演会とその後に行われた参加型のワークショップは、県内各地から参加した多くの教員や言語の専門家を魅了し、大変有意義なものとなりました。



修了生メッセージ



平良 美香子

沖縄キリスト教学院大学大学院
異文化コミュニケーション学研究科
2016年度修了

英語学習という修行

「どうやったら外国語を学べるのかな」と悩んで、試行錯誤した人たちの知識が詰まったのが第二言語習得という分野だと思っています。私自身、英語を勉強して、時間も、お金もかけて、なぜ出来ないだろう、英語の才能がないのかな、と落ち込むことが何度もあります。そんな時にこの分野の論文を読むと、習得に困難を感じる理由や、その解決策が載っていて、「こんなやり方があるのか、じゃあもうちょっとだけ頑張ってみようかな」という気持ちが湧いてきます。生意気ですが、私の論文もいつか、悩んでいる英語学習者の皆さんに、「こんなやり方もありますよ」と一つの解決策として読んでもらえると嬉しいなと思います。私も、落ち込みながら、模索しながら、様々な理論を実践して英語学習という修行を続けていきたいと思っています。

英語科

English Camp

2016年5月18日(水)～20日(金)、英語科では3日間のEnglish Campを行いました。1日目は、キャンパス内 SHALOM 1-1 で英語を使つての様々な活動を行いました。英語でのインタビューに英語で答えるアクティビティ、どれだけ正確に単語を知っているかを競う Spelling Contest(チーム戦、個人戦)、アドバイザーグループ毎に分かれ、与えられたテーマをもとに自分たちで短い英語劇を作って演じる English Skit など、知恵を出し合って作り、演じ、笑い、お互いのグループのパフォーマンスを見て楽しみました。

2日目からは、渡嘉敷島へ渡り、美しい海での海洋研修や、グループに分かれて英語で出された問題を解いていく Treasure Hunting 等を行いました。英語によるコミュニケーション力を鍛えつつ、親交を深める企画です。教室とは違う場所、違う場面で英語を使うことで英語の実践力を試せる良い機会であるばかりでなく、寝食をともにすることで人間関係の構築に大いに貢献しました。英コミや保育科の学生たちと科を超えた楽しい交流ができました。4月9日の短大オリエンテーションで金城重明先生からお話を聞いていた強制集団死の碑にお参りしたこと、英コミの玉城直美講師からブラックバイトについてのお話を聞いたことも参加した学生にとって意義深かったと思います。



保育科

在学生と卒業生 交流会 2017

卒業生と交流を深めてもらうことを目的に「在学生と卒業生 交流会 2017」が1月21日(土)に、キャンパス内ユニオンで開催されました。卒業を間近に控え、4月から始まる新しい生活に期待や不安を抱いている学生も多いこの時期、卒業した先輩方から力強いアドバイスを送られました。

この日は、保育所や幼稚園、また認定子ども園などで活躍している先輩たち7名が、後輩のために駆けつけてくれました。在学生は2年生30名と1年生2名が参加し、先輩たちの言葉に真剣に耳を傾けていました。「1年目は、保護者と決まりきったことしか話せなかったのが、徐々に園児の様子も取り入れたやり取りができるようになった」、「ピアノは得意な歌を1、2曲持っていたほうがいい」、「1年目は必ず体調を崩すので、体調管理にはくれぐれも気を付けて」など、実体験をもとに話されるアドバイスは、在学生に役に立つものばかり。そして、「失敗したり、大変なことがあっても、保育士を辞めようと思ったことは一度もなかった」「子どもたちが待っていてくれるから、翌日仕事行きたくない、なんて思ったことがなかった」など、保育士として、誇りを持ち、やりがいのある仕事をしている先輩たちの言葉に感動する学生たち。

次年度は、先輩たちを食い入る様に見つめているこの2年生が、後輩たちのために、立派な保育士、幼稚園教諭として働く姿を見せに来てくれることと思います。



卒業生メッセージ



英語科
2016 年度卒

山本 莉菜

新しい自分探し

将来英語を使った仕事をしたいと考え、キリ短に入学しました。そこから1年後、更なるスキルアップを求め、カナダへの留学を決めました。多国籍の友達を沢山作り、日々の英語力向上に努めました。モザイク社会と呼ばれる地での生活により、身につけた異文化理解力や社交性を生かし、帰国後、就職活動にも積極的に参加しました。ホテルでのアルバイトの経験から、ホテル業への就職に興味を持ち、無事就職活動を終える事が出来ました。地道にステップを踏んでいく事が、新しい自分に繋がり、将来の夢を叶えるチャンスになると思います。常に目の前の夢を持ちながら、キラキラした学生生活を送ってください！

卒業生メッセージ



英語科
2016 年度卒

德里 舞花

挑戦することの大切さ

私は、嘉手納外語塾という二年制の学校を卒業し短大へ入学しました。入学後は様々な事に挑戦しあらゆるものに目を向けていこうと思っていた私は、2年次の前期にアイルランドへ3ヶ月の語学留学をしました。留学中は、それまで本やテレビ越しに見ていた異文化を実際に体験し、沖縄にない社会問題等を直接目にすることができました。留学で得た刺激はそれまでの狭かった視野を広げ、卒業後の進路選択に影響を与えてくれました。「何かやりたいがそれが何かかわからない。」このような状況はある意味チャンスだと思えます。とりあえず目の前に示されたこと、気になる事に挑戦し充実した学生生活を送ってください。

総合教育系

「建学の精神」継承への試みとしての 第7回平和研修ツアー

われわれは沖縄戦の戦跡へ地区別に訪問するという従来の型から、テーマを設定した研修内容に切り替え、7回目の平和研修を11名(学生4名、教員5名、沖縄キリスト教センター平和ガイド2名)で実施しました。今回は「キリ学建学のルーツをたどる」というテーマのもとで、もう一度本学院とその建学の精神が誕生した歴史的事情を学ぶことを目的としました。本学院は1957年に創設されましたが、主要な創設者の1人、仲里朝章牧師が苦悩された「皇民化教育」の影響を知るため、午前中は那覇市内の戦跡を巡りました。そして、午後は本学院の最初の校舎となった日本基督教団首里教会を訪問し、竹花和成牧師から教会の歴史及び創立当時の本学院のエピソードを伺いました。その後、かつての首里キャンパスがあった上の毛公園を散策し、当時のキャンパス・ライフにも思いを馳せました。

建学の精神はいつの時代にあっても本学院の重要な指針です。仲里初代理事長・学長はじめ当時の沖縄キリスト教団の関係者達は戦災から立ち上がり、「ピース・メーカー」を輩出するためのキリスト教教育を展開すべく本学院を創設しました。私達そこに連なる者もそのスピリットを連綿と継承しつつ、本学院の発展に寄与する使命が与えられています。今回のフィールドワークでは、創立60周年を迎えるに際し、そのことを強く認識させられました。



卒業生メッセージ



保育科
2016 年度卒

すぐる
仲村 捷

最高の2年間

私は、小学校4年生の時に将来は子どもにかかわることをしたいと決意して、キリ短の保育科に入学しました。学生生活は楽しくバイトなどもありましたが、周りには共に「保育者」を目指す仲間がいるので助け合いながらやってきました。また、児童文化研究サークル長としてサークルを引っ張り、地域との交流をはじめ、キリ学祭や様々な施設での公演を行い、かけがえない経験となりました。キリ学での2年間はあっという間で、夢をかなえるために保育を学び、同じ夢を持つ最高の仲間と出会うことができたので、とても充実した2年間を過ごすことが出来ました。本学で学んだこと、出会った人を大切にします。

卒業生メッセージ



保育科
2016 年度卒

比嘉 江利佳

充実した2年間

私は小さい頃から子どもが大好きで、将来は子どもと直接携わり成長を間近で見守る事ができる仕事がしたいと思い、保育の現場で高い信頼と評価を得ているキリ短の保育科に入学しました。短大での2年間は課題や実習、バイトや学生会活動、就職活動など日々忙しく、壁にぶつかる事もありましたが、同じ夢に向かって頑張る仲間から刺激を貰い、支え合い励まし合いながら乗り越える事ができました。

2年間はあっという間ではありますが、色んな事に積極的に挑戦する事で自分自身の将来に繋がる経験ができると思います。皆さんも色んな事に挑戦し、充実した学生生活を送ってください。

外国人留学生メッセージ

卒業生メッセージ



人文学部
英語コミュニケーション学科
2016 年度卒

イ・ケウト・スアルダナ
(インドネシア出身)

キリ学での学びを活かす

留学当初は日本語学校で学んでいましたが、英語も学びたいと考えキリ学に入学しました。はじめは日本語の授業についていくのが大変でしたが、日本人の友人が助けてくれて、段々と慣れていきました。キリ学の行事では、キリ学祭の出店が思い出です。日本人の友人と一緒に、私の国の伝統料理を出しました。頑張って作って皆においしいといわれた時、本当に嬉しかったです。この大学で多くを学び、多くの友人ができて、本当に良かったです。キリ学での学びを活かし、卒業後は日本語と英語を使う社会人として活躍したいと思っています。

卒業生メッセージ



人文学部
英語コミュニケーション学科
2016 年度卒

イ・ケウト・スチプタ・アリアンタ
(インドネシア出身)

インドネシアと日本の架け橋として

日本語と英語力を向上させたいと思い、はじめはキリ短英語科に入学しました。その後、更に学び、日本で就職したいと考え、キリ学に編入しました。

在学期間は、さまざまな奨学金を頂きました。そのおかげで、アルバイトを減らし、勉強に集中ができました。最終的に、県外企業から内定を頂くことができました。そこで私はインドネシア語と日本語の通訳者として働く予定です。キリ学に入学して、語学を学ぶだけでなく、社会人としての心構えも学ぶことができました。本当にありがとうございました。

■ 学内英語弁論大会

2016年11月5日

2016年11月5日(土)、本学における英語の行事でもっとも大きなイベントである第36回学内英語弁論大会が開催されました。

今年度は、短大英語科、四大人文学部英語コミュニケーション学科から10名の学生が参加することになりました。参加者は日々の課題をこなしつつ、学園祭の準備など多忙な時期において、この弁論大会のための原稿の準備や、スピーチのための発音練習、声のトーン、表現力など、いろいろな面でかなりの時間と労力を費やしました。

観覧された保護者の皆様や教職員の方々には、彼らのスピーチの内容や質の高さ、それぞれに込められた漲るパワーに圧倒され、感動を覚えたことと思います。

テーマは「How can we, and why should we, learn Uchinaguchi?」、「Success」、「God and me」といった快活で多岐に渡った内容でした。それぞれが、極めて優秀な内容であり、審査員を大いに悩ませました。

その中で見事1位を獲得した「Found myself in New York」は、多くの人々が抱えている問題を自らの経験から見出し、考えを語ったスピーチで、会場の皆さまの心に強く響いたのではないかと思います。

出場者のスピーチは、文章力や説得力、表現力などあらゆる面でも優れており、年々学生のレベルが向上しているのを感じました。また、弁士たちのスピーチは聴衆を見事に引き込み、本人はもとより、会場全体が一体となって楽しむという雰囲気のある大会となりました。

また、今大会の上位入賞者3名と本学教員推薦2名の学生は、12月10日に開催された沖縄県大学間英語弁論大会に出場し、全員が賞を獲得しました。



学内英語弁論大会結果

第1位	松田 智恵里 英語科(1年次)
	Found myself in New York
第2位	喜屋武 春菜 英語コミュニケーション学科(4年次)
	Never Travel in Time
第3位	島袋 祐 英語コミュニケーション学科(4年次)
	Colors of Harmony

ハイライトシーンをYoutubeで視聴することができます。
3人の受賞者たちのスピーチをフルバージョンでお楽しみください。



<https://www.youtube.com/watch?v=jl77LBQSVl0>

沖縄県大学間英語弁論大会

<https://sites.google.com/site/okinawaspeechcontest/home>



■ 高校生英語弁論大会

2016年12月10日



高校生英語弁論大会結果

第1位	金城 萌音 興南高等学校 1年	熱意は国境を超える Enthusiasm goes beyond national borders
第2位	松元 玲奈 沖縄尚学高等学校 2年	感謝することへの意味 What's in a Thank you?
第3位	喜屋武 遥 開邦高等学校 2年	さしのべられた手 Taking Someone's Hand
Best Impromptu 賞	福満 千尋 向陽高等学校 3年	自分の道を Who am I?
学長賞	比嘉 こころ 球陽高等学校 2年	新しい自分 A New Version of You

第28回高校生英語弁論大会が2016年12月10日(土)に本学仲里朝章チャペルにて開催されました。9名の沖縄の高校生がLGBTについて、幸せについて、家族の大切さについて、本当の美しさについてなど様々なテーマで自分の意見を述べました。参加者はテーマについてリサーチをし、また、自分の経験を通して、感じたこと学んだことを発表し、素晴らしいスピーチを熱弁しました。どのスピーチも優劣つけがたく、審査は難航しました。

1位に輝いたのは「Enthusiasm goes beyond national borders」(熱意は国境を超える)について語った興南高等学校の金城萌音さんです。言語の壁を越えて熱意が伝わることによって人とのコミュニケーションが可能になることをユニークな視点で堂々と弁論してくれました。2位に選ばれたのは沖縄尚学高等学校の松元玲奈さん、3位は開邦高等学校の喜屋武遥さんでした。そして、英語による質疑応答が最も優れていた出場者に贈られるBest Impromptu賞には向陽高等学校の福満千尋さんが選ばれました。学長賞には留学を通して「新しい自分」を発見したことを語った球陽高等学校の比嘉こころさんが選ばれました。毎年この弁論大会に出場する高校生の英語レベルやプレゼンテーション能力は高くなっているように思います。さらに、スピーチの内容もグローバル化社会の多様な価値観が反映された非常にユニークで興味深いものになっています。

◆ 学生の学び合い 2016年8月29日～9月1日

2016年8月29日から9月1日までの4日間、本学を会場に「第4回 キリスト教を土台として沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」が開催されました。これは県内外の学生が参加し、沖縄、長崎、広島それぞれの地における平和学習や平和への発信の取り組みを紹介し合い、互いに学び合うという趣旨で始められました。

講演、学生による発表、グループ討議だけでなく、この学び合いの大きな特徴として現地研修があります。沖縄戦の戦跡を訪ねたり、米軍基地の様子を見て学んだり、実際に自分の目で見て確かめることを大事にしてきました。それらに加えて今年は辺野古で船にも乗りました。海を埋め立てて新しい米軍基地を建設しようとしている現場を海から見る経験はなかなかありません。参加者は辺野古、大浦湾の美しい海、サンゴ礁、魚の群れに感動の声を上げ、この豊かな自然を破壊して戦争に加担する軍事基地を建設する計画に心を痛めました。

全国の学生が出会い、互いの学びを共有し、それぞれの地から平和を創っていくことを確かめ合うことができるこの機会に、より多くの学生が参加してほしいと思います。



読谷村・チビチリガマ



辺野古で船に乗る



平和の礎



学生の発表

◆ TEAM 琉球の活動

当研究所には学生活動として「TEAM 琉球」が位置づけられています。学生たちは研究所に集まり沖縄の歴史や沖縄戦のこと、平和のことを学ぶだけでなくフィールドワークも大切にしています。活動として、沖縄戦の戦跡、米軍基地周辺などの現地に足を運んで学んできました。そして学んだことを活かし、発信する場として「キリスト教を土台として沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」や、県外の中学・高校の修学旅行生への平和ガイドなどがあります。

また、毎年春休み期間中には伊江島での合宿を行ない、学びと交わりを深めてきました。これまで沖縄本島における戦争のことは学んできましたが、宮古・八重山地域については学ぶ機会がありませんでした。そこで、2016年の合宿は宮古島で行い(2016年3月30日～4月1日)、初の宮古島研修を実施しました。今まで深くは知らなかった宮古島の沖縄戦、また、今の課題としてある自衛隊のミサイル基地配備問題など多くのことに目を開かれてきました。

「自分たちが生まれ育った大好きな沖縄だからこそもっと深く知りたい」そんな思いをもって学生たちが集ってきます。

TEAM 琉球とは、「沖縄」と「琉球」について学べる場をつくりたいと学生達が主体となり2011年に設立しました。



修学旅行生平和ガイド



宮古島研修：アリランの碑にて



宮古島研修：御真影奉護壇にてガイドより説明を受ける

キャリア支援

就職関連

進路セミナー

【2016年6月7日】

全学科1年次を対象に、6月に「進路セミナー」を開催しました。

進路セミナーは、キャリア支援課、学生課、国際平和文化交流センターが主催し、教員やOB・OG協力のもと、初年次学生の皆さんに、学生生活の過ごし方や進路(就職・進学・留学等)について考えてもらう終日プログラムです。

午前中の全学科共通講演会では、「キャリアについて考えよう」と題し、大学生活を受け身ではなく目的を持って有意義に過ごす事が将来のキャリアに繋がる等について、松堂美和子氏(キャリアデザイン研究所代表)に講演いただきました。

後半は各学科に分かれ、学科毎の学生生活ロードマップを確認し、学生自身が目指す進路についての情報収集や具体的なアクションの方法を学ぶ等、様々なプログラムが実施されました。

最後の「OB・OGパネルディスカッション」では、仕事の魅力ややりがい、また学生時代の学びが現在の仕事にどのように活かされているのか等について、OB・OGの皆さんに伝えていただきました。学生の皆さんにとって、今後の進路について考える良い機会となりました。



就活体験☆合宿

【2016年12月3日～4日】

四大3年次、短大1年次を対象に、1泊2日の「就活体験☆合宿」を12月に開催しました。

この合宿は、就職活動で行われる一連のイベントや選考過程で行われる合同企業説明会、エントリーシート・履歴書作成、集団面接、筆記試験、グループワーク、グループディスカッション等をダイジェストで体験するプログラムとなっており、就職活動前の準備期間の過ごし方の重要性を知り、3月以降の就職活動について具体的にイメージできるような内容で、学生30名が参加しました。

業界研究では、県内各業界を代表する企業をお招きし、航空業界、旅行業界、ホテル業界、金融業界について説明をいただき、学生は各業界への理解を深め視野を広げることができました。また集団面接体験では、企業の方にもご協力いただき、面接に臨む際の心構えなどを学びました。

参加した学生の皆さんは多くの気づきや学びがあり、これから始まる就職活動に向けて互いに意識を高め合う充実した合宿となりました。



保護者向け就職活動セミナー

【2016年11月12日】

四大1～3年次、短大1年次の保護者の皆さまを対象にした「保護者向け就職活動セミナー」を、キリ学祭中の11月12日(14:00～15:30)に開催しました。

これから就職活動を迎える学生の保護者の皆さまに、現在の就職活動の実態を把握していただくため、本学の就職状況、就活スケジュールの流れ、企業の採用動向、本学の就職支援の内容、保護者の皆さまにできるサポート等についての解説と、就職内定学生の就活体験の報告会を行いました。

就職内定学生による報告会では、就職活動の経験や親から受けた支援の中で嬉しかったことなどの体験談を語ってもらい、会場からは質問も出るなど有意義なプログラムとなりました。



T cafe

キャリア支援課スタッフ主催の少人数就職ガイダンス「T cafe」(Talk of the T)を適宜開催しています。学内のcafeラウンジを活用し、リラックスした雰囲気の中、就職活動の準備に取り組む学生を支援しています。

2016年度は、「電話のかけ方」「エントリーシート作成対策」「キリ学・キリ短生の英語力&コミュニケーション力を活かせる業界とは?」「内定者の話を聞こう」などをテーマとしたT cafeを全12回開催し、学生の要望、就活への不安・疑問に応える企画となりました。

キャリ Cafe

【2017年2月20日、22～24日】

四大1～3年次・短大1年次を対象に、様々な企業を招いた「キャリ Cafe(業界研究)」を4日間にわたり開催しました。

「キャリ Cafe」は従来の企業説明会とは異なり、様々な業界(旅行業界、金融業界、運輸業界、小売業界他)の方をお招きし、少人数グループに分かれた学生と、Cafeラウンジのテーブルで直接コミュニケーションを取りながら行う業界・企業研究です。学生が業界・企業への理解を深め興味を広げ、職業意識を育てる機会を提供しており、参加した学生からも好評でした。



2016年度 主な図書館行事

今年度も図書館主催のフェアやイベントを数多く開催し、多くの学生や学外者が図書館に足を運んでくれました。

図書フェア・イベント・セミナー

4月 ●「学生時代に身につけよう読書習慣」(春の就活図書フェア)
5月 ●文献検索セミナー
6月 ●絵本フェア
7月 ●「泳ぐ物語の世界」(夏の小説フェア)
●ProQuestCentral(電子ジャーナル・データベース)講習会

10月 ●「本からく学ぶ・知る」(秋の就活&留学図書フェア)
●3年次向け文献検索セミナー
●絵本読み聞かせ講座
●聖書展示
12月 ●ビブリオバトル
●クリスマス絵本展
1月 ●「原作でふり返る映画特集～2016～」(ミニ図書フェア)

ビブリオバトル

日時 2016年12月1日(木) 16:30～17:30

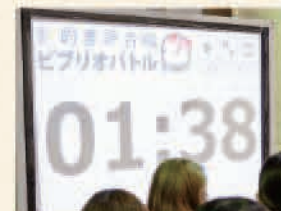
場所 図書館



本と出会える場を作りたいとの思いから図書館ロビーを会場に、今年もビブリオバトル(知的書評合戦)を開催しました。「どうして読んでほしいのか。」を熱く語る本の紹介者達に



して、紹介本「喜屋武マリーの青春」について会場から「喜屋武マリーさんってご存知?沖縄を代表するミュージシャンよ」などの質問で盛り上がりました。今年のチャンプ本は、人文学部英語コミュニケーション学科4年次、平良すずのさんの「僕が旅にでる理由」に決定しました。この日紹介された本は、コメントを付けて図書館ロビーで展示、貸し出しました。



*ビブリオバトルとは、読んでおもしろいと思った本を一人5分間で紹介するコミュニケーションゲームです。本の紹介後一番読みたかった本に投票し、得票数の多い本がチャンプ本となります。

絵本読み聞かせ講座

日時 2016年10月28日(金) 10:40～12:10

講師 平田 恵美子 氏(沖縄県子どもの本研究会顧問)
平良 京子 氏(沖縄県子どもの本研究会副会長)

場所 体育館



保育所実習や幼稚園実習を経験した短大保育科2年次向けに、「絵本読み聞かせ講座」を開催しました。プログラム前半は、平田恵美子先生による『赤ちゃん絵本について』、平良京子先生による『幼い子のためのブックトーク』と題して講座を行いました。子どもの発達段階に合わせた丁寧な絵本の選び方や、声色を変え子どもの集中力を切らさない工夫などを学びました。後半の学生による実践練習では、グループに分かれ講師から直接読み聞かせのアドバイスや指導を受けました。小道具を使った導入、うちなーぐちの絵本を使った表現方法や、わらべ歌に合わせた手遊びなどを学び、充実した講座内容でした。

聖書展示

日時 2016年10月3日(月)～31日(月)

場所 貴重書室



図書館では10月31日の宗教改革記念日に合わせて、本学が所蔵している47種の言語で書かれた「聖書」を展示しました。書架に配架されているだけでは手に取ることのなかったラテン語や欧州、東南アジアの国々の聖書と言語にふれることができました。

講演会

沖縄キリスト教学院図書館講演会・大学コンソーシアム沖縄県民向け公開講座『子どもの貧困と沖縄』を金城隆一氏(NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい代表理事)を招いて講演会を開催しました。

全国の2倍近い貧困問題を抱える沖縄の現状をデータで示し、子どもや若者の自立に向けた支援について講演していただきました。また、子どもの居場所「KUKULU」の寄り添い型支援を紹介し、「傷口にばんそうこうを貼る支援ではなく、沖縄を担う子どもの未来にしっかりと投資することが、社会を担う人材をつくる。」と話していただきました。

講演会に合わせて子どもの貧困に関連する図書と新聞記事を収集し図書館ロビーに展示しました。



日時 2017年1月21日(土) 14:00～15:30

演題 子どもの貧困と沖縄

講師 金城 隆一 氏(NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい代表理事)

場所 SHALOM開館1～1教室

関連図書展示: 2017年1月5日(木)～31日(火)



退職教員メッセージ

私の教育目標

沖縄キリスト教学院大学
人文学部 英語コミュニケーション学科 教授

高崎 正名



2005年9月から11年余り、教職員の皆さん、学生の皆さんをはじめとして、多くの方々にご支援をいただいてまいりました。これまで職務を全うできましたのも、偏に皆様の御指導・御鞭撻の賜物と感謝あるのみです。心よりお礼申し上げます。有難うございました。

証券マンから沖縄キリスト教学院大学の教員として勤務するに際し、教育、研究、学校運営、地方連携分野等に於いて、多くの重要なテーマがあることを知りました。ここでは字数の関係もあるため教育分野に話を絞りますと、「広い視野に立った専門知識と社会で活躍できる実務知識を習得した若者を育てる」を自分の教育目標と定めました。

教育目標の取り組み内容を簡単に述べますと、まず、経営学、国際経営論、国際金融論等の担当専門科目については、リーマンショック、英国のEU離脱、そしてトランプ旋風等々世界政治・経済変動に揺り動かされ、生活に直接影響を及ぼす緊急課題が次々と出てきました。問題解決のためには具体的にどうチャレンジしていくべきか、証券マン時代の海外勤務経験(米国、英国、愛蘭)を紹介しつつ学生と意見を交換し合い、専門知識を深めていく時間を共有してきました。

次にインターシップ、キャリア開発演習等の実務知識の教育については、私の実務経験を活かすことは勿論、現在沖縄の経済界

で活躍されている実務家の方々にビジネスの現状をご講話いただきました。学生にとって、教科書では学べない現場の一端を知る興味深い時間ともなったようです。ご講義いただいた企業先は金融業、小売業、広告業、ホテル業、IT企業等、多岐にわたっております。この機会をお借りして厚く御礼申し上げます。

講義科目に加えて、県内5大学連携の金融講座、ファミリーマート主催の学P、沖縄観光コンベンションビューロー主催の学卒プロジェクト等への参加を積極的に進めてきました。

特に県内5大学の教員・学生、そして沖縄の金融機関の皆さんと連携して毎年15コマ開講した「金融講座」は、既に8年が経過しました。講座参加者数も合計179名となり、沖縄5大学の連携ネットワークとして成長してきております。

今後とも教育、研究、学校運営、地方連携分野等に於いて、いろいろな場面に直面することでしょう。これまで通り、教職員一人一人が学生への教育と学問研究に対する真摯な気持ちを保ち続ける事が大切だと考えます。

本学のますますの発展を心より祈念いたしております。

退職によせて

沖縄キリスト教短期大学
保育科 教授

喜舎場 勤子



この3月に退職することとなりました。2006年4月に保育科教員として採用されてから、瞬間の10年間でした。その間、超少子高齢社会による女性の労働問題や国際化と連動した新しい学力観の開発を背景に、保育・幼児教育が国策として脚光を浴びていく時期でもありました。このような激動の時に、保育者養成に関わることができたこと、研究大会等で多くの保育・教育現場の先生にお会いできたこと、そして県や市町村の保育・教育行政に携わることができたことなど、様々な公的役割が与えられ大変充実した時間でした。

個人的な事ですが、私の母は本学院3期生(1959-1961)です。今はすでに他界しましたが、生前はよく学院の話しをしていました。なかでも、創設者の一人である前田伊都子先生(1918-2007)については、勉学のみならず自宅に招かれては礼儀作法を含めて厳しく指導されたこと、そして日々の生活の中で多くの示唆を受けたと懐かしそうに話していました。今回の執筆にあたり『同窓会名簿』や『50周年記念誌』のスラッシャー先生(第7代学長)回顧録を読み返したのですが、本学創設時のカリキュラムが米国キリスト教ディサイプルス派の聖学院大学(埼玉県／1903)の影響を受けていたことは新しい気づきでした。

その後、母は米国キリスト教メソジスト派の流れを汲む聖和短期大学保育科(兵庫県／1880-2009。関西学院と法人合併され、聖和の学部・大学院を基に教育学部が創設された)へ留学します。私の記憶が正しければ、前田先生の尽力で奨学金を受け留学が実現しました。卒後は、金城重明先生(第3代学長)や大城実先生(現 沖縄キリスト教平和研究所所長)が園長を務めたゴスペル幼稚園(日本キリスト教団系満教会)へ赴任し、後に公立幼稚園教諭へ転身し30

年以上定年まで務めました。この頃、本学から聖和へ定期的に卒業生を送っています。保育士資格や幼稚園教諭免許状保持者が珍しかった時代、戦後の保育所や幼稚園振興のため、母のみならず本学や聖和の卒業生が各地で活発に関わったようでした。

奇しくもその数十年後、私自身も聖和で学び本学の教壇に立つ機会が与えられました。聖和大学では、同大初代理事長・学長の山川道子先生(1905-1988)に大変良くいただき、またジョン・ボウルヴィ(John Bowlby/1907-1990)アタッチメント理論の権威である黒田実郎先生にお会いする機会にも恵まれました。両者はいずれも母の恩師であり、娘の入学を大変喜んでくださいました。私にとって聖和から本学までの期間は、文献でしか知りえない「歴史上の著名人」と出会った不思議な錯覚を持つ刺激多き時間でした。ちなみに、山川先生はジョージ・ピーボディ大学院やコロンビア大学院で学ぶ中、米国では大学院修了者が幼児教育の場で実践と研究に従事していることに触発され、日本初の幼児教育4年制学部や修士課程の開設に尽力し、後の博士課程設置へ影響を与えた人物です。

本学創設時の思いを連綿と受け継ぎ、人材を輩出するその一端を個人的体験として垣間見る機会が与えられ、大変光栄でした。創設以来、地下深く張られた根が保育系学部設置として芽吹き開花することを、そして沖縄や日本の保育・教育を牽引する保育者養成機関としての使命が果たせることを、貴学のますますの発展と合わせ祈念いたします。

退職にあたって

沖縄キリスト教学院大学
人文学部 英語コミュニケーション学科 教授

藤原 幸男



琉球大学で教職科目を38年教え、2014年3月に定年退職しましたが、2015年4月に本学院に採用され、2年間、新学部設置準備に携わる一方で、短期大学・学院大学で授業(表現技法、特別研究、教職の意義、教育課程論)を担当してきました。

前半1年は短期大学英語科に、後半1年は学院大学英語コミュニケーション学科に所属し、学科会議、教授会に出席しました。短期大学英語科は少人数の教員スタッフで、会議では学生の勉学や生活を気かけ、いつも学生の話題が出ていたことが印象に残っています。学院大学英語コミュニケーション学科は所帯が大きく、自由闊達な雰囲気会で会議が進むことに良さを感じました。いずれの学科もファミリー的雰囲気、居心地よく過ごさせていただきました。感謝を申し上げます。

授業の中の学生は、基礎知識・学力面の課題をとくに感じましたが、勉学意欲があり、授業についてきていたように思います。授業における素直な発言、ワークシートでの率直な感想はうれしかったです。イングリッシュキャンプ・オリエンテーションキャンプは、渡嘉

敷島のグリーンな海に囲まれた環境の下で普段とはちがった学生・教員の表情がみられ、交流ができ、良い思い出になりました。

新学部設置は2015年4月から山城眞紀子室長の下で準備を進めてきました。新学部は子ども学部(仮称)を構想しました。新学部ができれば学院の発展だけでなく、県内の人材養成に貢献できると希望を抱いて一生懸命取り組んできましたが、膨大な作業に追われ時間が足りないなど、期限までに申請できませんでした。今から思えば反省ばかりです。2016年4月からは新学長の就任もあって新体制で進む予定でしたが、再出発には至らず、準備室は残務処理に終始しました。

学長から留任の要請がありましたが、数年後に再挑戦するとなると年齢的に専任教員就任が困難なので、設置準備の仕事から退き、後任の方に託すことにしました。今後学院が一丸となって取り組み、新学部設置に近い将来に実現することを期待します。

採用教員メッセージ

新任教員として、研究・教育への抱負

沖縄キリスト教学院大学
人文学部 英語コミュニケーション学科 准教授

仲里 和花



はじめまして。2016年4月1日に沖縄キリスト教学院大学に着任いたしました仲里和花と申します。専門分野は異文化コミュニケーションです。

私は、2012年4月から2016年3月まで、琉球大学大学院の後期博士課程に在籍し、沖縄県在住フィリピン人女性と沖縄人男性の夫婦間コミュニケーションの問題を調査研究してきました。在沖フィリピン人女性は、女性であることに加えて、外国人、マイノリティーという立場のため、夫との対等なコミュニケーションをすることに困難を感じています。フィリピン人女性を受け入れる夫や家族、そして社会が、彼女達の弱い立場を理解しながら、彼女達との対等なコミュニケーションを心がけると同時に、彼女達が自分らしく生きられる環境を整備していくために、少しでも貢献できればと思い、調査研究に携わってきました。

これらの調査研究を通して学んできたことを活かしながら、沖縄キリスト教学院大学では、研究・教育・業務に携わっていきたくと思っています。現代のグローバル化社会において、異文化コミュニケーションの研究や教育が目指す大切な目的の一つには、多様な価値観・考え方を持つ他者との関係性の中で、言語・非言語コミュニケーションというツールを通して、共に平和に生きていく方法を模

索することがあると思います。これは、本学の建学の精神にも通じるところがあります。イエス・キリストの愛の精神に基づいて、人種、宗教、階級、性別、職業の違いを超えて、すべての人々がかけがえのない存在であると認められ、お互いに理解し合いながら、平和な共生社会を目指していく。イエス・キリストが異文化を超えて、人々を愛された隣人愛・愛敵の精神を、現代の異文化理解、多文化共生の視点と結びつけながら、異文化コミュニケーション教育を実践していきたいと思っています。

今、沖縄は、構造的差別によって、巨大な米軍基地を押し付けられているという現状があります。このような沖縄に住んでいるからこそ実感できる真の平和について一軍隊の暴力による平和ではなく一人ひとりが平和的対話や建設的外交を通して構築していく平和の在り方を学生たちと共に模索していきたいと思っています。

将来、学生たちが近隣諸国の人々と共生していくために必要な異文化コミュニケーションの方法を理論や実践を通して教え、そして、沖縄の真の平和構築に貢献できる人材を育成することが私の目標であり夢です。今後ともご指導よろしく願いいたします。

同時通訳集中講座 2016年8月6日～13日

本講座も、今年で24回目を数えることとなりました。主任講師の宮田輝彰先生と本学講師陣(柳田正豪、David A. Ulvog、城間仙子)に加え、外部講師として宮国薫子先生(琉球大学観光産業科学部講師)、にも授業をご担当いただき、幅広く豊かな内容の講座実現にご協力をいただきました。

今年度の特別講演には、本学非常勤講師でもある Simon Robinson 先生をお招きし、「Egalitarian Education—the True Nature of Learning」(平等教育—学びの本質)と題して、社会において私たちがどのように教育に向かい合うべきかをお話いただきました。私たちの多くに馴染みのある、勉強と試験を繰り返す学校教育と異なり、先生が関わっていらっしゃるサドベリー・スクールがいかに民主的に運営されているか、またそれがいかに生徒たちの学びと成長、充実した人生に寄与するかについて、大変貴重で興味深いお話を賜りました。講演会では、上級クラス、初級クラスの受講生が同時通訳ブースに入り、果敢に同時通訳に挑戦しました。

今年も予定通りに8日間の日程を無事終えることができました。関係者の皆様の多大なご協力に感謝申し上げます。



理科教育支援事業



理科教育支援委員長 内間清晴

最新の国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の結果で、日本は小学校、中学校ともに全教科で過去最高の平均得点でした。しかし、「理数の勉強が楽しい」と答えた中学生は国際平均を下回っており、高学年になるにつれて理数への興味が低くなっている傾向があります。その傾向は以前からも課題とされてきました。理科教育支援事業も、感受性豊かな小学生の頃から自然現象に対して感動し、論理的に物事を考える力を育てる必要性を痛感し、一人でも多くの理科好きな児童を育てたいという思いで2009年度からスタートしました。直近の3年で行った支援授業も200回を超え、小学校や西原町教育委員会の先生方から大変良い成果が現れていると好評を得ており、今後も継続して頂きたいと強く要望されています。私たち支援者は学内の講義や会議をはじめ様々な業務に追われ、理科教育支援事業の準備は休日や深夜に及ぶ事が多くありますが、私たち支援者が行う実験を見て、児童達が心を躍動させ興味を示してくれる姿が理科教育支援事業を継続していく力となっています。

西原町わくわくワーク

2016年11月20日

地域との連携で「グッジョブにしはらわくわくワーク」と題し、職業体験を西原町在住の中高生の皆さんに来学頂きました。建学の精神の、「キリスト教」「平和」「沖縄」をキーワードにキャンパスライフをお話し、本学で学んだ卒業生がどの分野で活躍しているのか紹介いたしました。後半は実際に国際理解教育の模擬授業も体験して頂き、将来の沖縄および県外・海外で活躍するための国際的な情報共有の時間となりました。



公開講座 地域貢献を目指して

地域とのつながりを大切にしている本学院は、生涯学習を目指す方々に、身近に学習の場を提供するため、公開講座を実施しております。学院がもつ教育・研究の成果を、知識として広く社会に開放し、地域社会における教育文化の向上に資することを目的に、公開講座をとおして社会及び地域のニーズに応えていきます。講座は前期と後期に開講しており、概要については、公式ウェブサイトに掲載します。興味のある講座に奮ってご参加ください。



教会音楽講座(神谷智子講師)

2016年度開講講座

- 同時通訳講座(基礎)(城間 仙子准教授)
- 旅先で英語を話そう(スミス 陽子講師)
- 教会音楽講座(神谷 智子講師)
- イタリア歌曲の歌唱(宮城 里美講師)
- 教育心理学概論(Eng Hai Tan 講師) ほか

静かで暖かなクリスマス礼拝・祝会 2016年12月22日

2016年12月22日仲里朝章記念チャペルにて、クリスマス礼拝を執り行いました。

第1部の礼拝は、オーケストラとオルガン演奏、讃美歌の美しい調べの中、厳かに始まりました。聖書のイエス・キリスト聖誕物語が様々な言語で朗読され、朗読の間には聖歌隊と「キリスト教芸術」受講生、「教会音楽 合唱講座」受講生によってキャロルが歌われ、「手話II」受講生による手話も行われました。ロウソクの灯に照らされた暖かな雰囲気の中、宗教部長により、く母マリアの信仰の決

断)のメッセージが語られました。また、熊本・大分地震への支援、沖縄での福祉に取り組む6団体へ尊い献金が捧げられました。学生会による受付・会場・点火・献金などの積極的な協力があり、多くの方々と共にクリスマスの意味を受け止めることができました。

第2部の祝会では、体育館に場所を移し学生宗教委員会 HOPE による司会のもと、持ち寄りの料理を併せたおいしい食事を囲んで来場者全員と共に楽しい交流と語らいの時を持ちました。ご来場くださった皆様、協力してくださった皆様に心より感謝いたします。



ワイワイプラザ in キリ短

ワイワイプラザ in キリ短とは、地域子育て支援実習のことです。「子育て家庭を取り巻く今日的課題を理解し、子育て・育ちを支援する内容及び方法を検討し実施する」を到達目標とした科目で、クラスごとに分けられた1年次と2年次が合同で行います。

この科目においては、入学したばかりの1年次にとって内容の理解に時間を要します。幼児教育のガイドラインである幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保認定型こども教育・保育要領を片手に、2年次より説明をうけ理解をします。

そして、子育て家庭の現状をアンケートや情報収集などを通して把握します。そこから、実習内容を検討し意義を問い準備を進めて実習に望みます。

また、実習を終えた後は、その実習内容については勿論のこと、親子(=保護者)支援の在り方はあれで良かったのか、また、支援を必要としている親子(=保護者)へ提供ができたかどうかを振り返り次へつないでいきます。

保育科全体で取り組んでいるこの科目は、毎年、内容が充実してきています。今では、学内だけの実習にとどまらず、地域への出前実習も行われています。

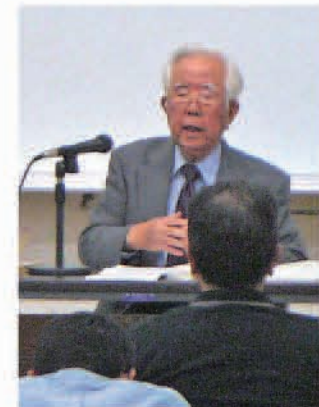


連続講座Vシリーズ

「戦後の沖縄における教会の歩みと回顧—苦難の中での平和の願い—」と題して当研究所では2010年からシリーズで連続講座を実施してきました。2016年はその第Vシリーズとなり、次の内容の講座を開催しました。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 7月19日『「集団自決」を心に刻んで』 | 金城 重明 氏(本短期大学第3代学長) |
| 9月20日『戦場の十字架』 | 石原 絹子 氏(聖公会沖縄教区司祭) |
| 10月18日『戦前戦後のカトリック』 | 谷 大二 氏(カトリック沖縄教区司祭) |
| 11月15日『ボリビアに遭わされて』 | 山里 勝一 氏(日本基督教団沖縄教区牧師) |

今シリーズでは教会という組織を中心とした内容よりも、個人の沖縄戦体験、戦後の苦難の歩みの証言が中心であり、それだけ生き生きと、また重い内容が聴く人々の心を打ちました。沖縄戦を体験された方のお話を伺う機会はますます少なくなっていくと思います。こうした貴重な機会を今後も提供し、共有していきたいと願っています。



山里 勝一氏
(日本基督教団沖縄教区牧師)

学内環境整備



■南棟1階トイレリフォーム

西原キャンパスに移転して27年。施設老朽化対策、キャンパスアメニティの充実、学生満足度の向上等を図るため、南棟1階のトイレをリフォームしました。学生からも好評です。

これからも、満足・安心・安全なキャンパスを目指して計画的に施設等の整備を推進する予定です。

■本校の施設紹介

<http://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/cmap/>



■電子オルガンの入れ替え

北3-6EML教室の電子オルガン25台を新しくしました。これまでの電子オルガンの機能の他、よりグランドピアノに迫るタッチの新機種です。

EML教室は、保育科のカリキュラムである音楽Ⅰ・Ⅱの授業で使用されます。その他、防音で空調機の完備された、自由に使用できるピアノ練習室が18室、グランドピアノが設置され授業、個人指導等に使用されるピアノレッスン室2室があります。

同窓会・後援会の活動

同窓会の会員数は、2016年3月末現在、1万4千名余です。今年度のイベントは、キリ学祭の最終日11月13日(日)学生ユニオンにて茶話会、11月20日(日)西原パークゴルフ場にてパークゴルフ、その後、場所を沖縄キリスト教学院 SHALOM 会館に移して表彰式と懇親会を行いました。少人数ながら和気藹々とした雰囲気、会員相互の親睦を深めることができました。同窓会では、毎年6月に定期総会と懇親会を開催しています。開催日時は公式ウェブサイトや新聞等にてお知らせしています。是非ご参加下さい。

また、継続活動としまして、奨学金やキリ学祭援助金の授

与、新旧学生会役員との懇親会、新入生への記念品の贈呈、県外就活の助成等を行っております。昨年度作製しました同窓会オリジナルポロシャツの販売もいたしております。郵送での購入も可能になりました。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせください。

後援会では、本学院の目的及び事業に協力し、学院の維持発展並びに学生の福祉増進に寄与することを目的に活動していますので、同窓会と連携して事業を進めております。

今後とも同窓会、後援会の活動に御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。



奨学金授与式



・同窓会からのお願い・

同窓会ではデータによる会員名簿の整備を進めています。

①住所 ②氏名 ③電話番号 ④勤務先
の変更等をお知らせください。

【連絡先】同窓会事務局

電話/FAX:098-946-1280

E-mail:dousoukai@ocjc.ac.jp



同窓会定期総会



新旧学生会役員との懇親会

寄付感謝報告

寄付指定 (2016年1月1日～12月31日まで)

寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

個人(26件/¥9,709,000) 団体(31件/¥11,602,000) 合計(57件/¥21,311,000)

施設設備資金		
同窓/在学生	2	1,129,000
一般	1	800,000
団体	2	160,000
宗教	1	3,000
宗教団体	3	30,000
教職員	1	70,000
後援会	1	2,915,000
合計	11	5,107,000

教育活動		
同窓/在学生	2	556,000
一般	1	1,200,000
団体	2	80,000
宗教団体	2	65,000
後援会	1	3,000,000
合計	8	4,901,000

奨学金		
同窓/在学生	1	250,000
企業	8	530,000
団体	2	150,000
宗教団体	3	500,000
学校関係者	2	1,100,000
教職員	8	2,810,000
同窓会	1	600,000
後援会	1	3,010,000
合計	26	8,950,000

学生会活動援助費		
同窓会	1	300,000
後援会	1	200,000
合計	2	500,000

国際交流		
宗教団体	1	5,000
教職員	1	10,000
合計	2	15,000

沖縄キリスト教平和研究所		
一般	2	51,000
宗教団体	1	27,000
教職員	1	600,000
合計	4	678,000

その他		
団体	1	30,000
宗教	1	100,000
学校関係者	2	1,030,000
合計	4	1,160,000

2016年度人事

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

【任期：2016年4月1日～2020年3月31日】
友利 廣

●教育管理職

【任期：2018年3月31日まで】

新垣 誠 人文学部長
内間 清晴 短期大学部長 ※図書館長兼務
金 永秀 宗教部長
上原 明子 学生支援部長 ※国際平和文化交流センター長兼務

【任期：2017年3月31日まで】

2016年4月1日付
青野 和彦 総合教育系主任 ※前任者の残任期間
2017年1月5日付
川西 康裕 保育科長 ※前任者の残任期間

●沖縄キリスト教学院大学

人文学部

2016年4月1日付

【採用】

仲里 和花 英語コミュニケーション学科准教授(任期教育職員)

【昇任】

照屋 信治 英語コミュニケーション学科教授(准教授)

【異動】

藤原 幸男 英語コミュニケーション学科特任教授(英語科)
武村 朝吉 英語コミュニケーション学科准教授(学習支援センター准教授)

2017年3月31日付

【退職】

高崎 正名 英語コミュニケーション学科特例教授

藤原 幸男 英語コミュニケーション学科特任教授

●沖縄キリスト教短期大学

2016年4月1日付

【採用】

村田 典枝 英語科特任教授
大山 伸子 保育科特任教授

【昇任】

喜舎場 勤子 保育科教授(准教授)

2017年3月31日付

【退職】

村田 典枝 英語科特任教授
喜舎場 勤子 保育科教授

●事務職員

2016年4月1日付

【採用】

宇座 徳祐 参与
金城 繁史 教務課(任期事務職員)

【昇任】

與那原 馨 事務局長代行(キャリア支援課長)
浜川 みゆき 学生課主任(書記)

原田 春美 教務課主任(書記)

【異動】

中田 竜次 総務課長(学生課長)
友利 道明 企画推進課長(情報センター課長)
金城 繁正 学生課長(企画推進課長)
金城 雄彦 情報センター課長(総務課長)
真栄田 美奈 キャリア支援課主任・課長代行(図書課主任)

上間 里子 図書課書記(入試課書記)

2017年3月31日付

【退職】

宇座 徳祐 参与

2015年度決算報告

自2015年4月1日 至2016年3月31日

資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科 目	決算額	科 目	決算額
学生生徒等納付金収入	723,847	人件費支出	538,304
手数料収入	17,022	教育研究経費支出	172,293
寄付金収入	17,514	管理経費支出	44,782
補助金収入	133,371	借入金等利息支出	1,791
資産売却収入	0	借入金等返済支出	36,100
付随事業・収益事業収入	3,926	施設関係支出	31,617
受取利息・配当金収入	3,958	設備関係支出	21,624
雑収入	20,795	資産運用支出	65,000
借入金等収入	0	その他の支出	20,857
前受金収入	353,831		
その他の収入	26,829		
資金収入調整勘定	△363,037	資金支出調整勘定	△34,820
前年度繰越支払資金	1,151,213	翌年度繰越支払資金	1,191,717
収入の部合計	2,089,268	支出の部合計	2,089,268

貸借対照表

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科 目	本年度末	科 目	本年度末
固定資産	3,326,132	固定負債	303,962
有形固定資産	2,671,869	流動負債	434,174
特定資産	651,000	負債の部合計	738,136
その他の固定資産	3,263	純資産の部	
流動資産	1,207,462	科 目	本年度末
		基本金	4,332,295
		繰越収支差額	△536,837
		純資産の部合計	3,795,458
資産の部合計	4,533,594	負債及び純資産の部合計	4,533,594

事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目	決算額
教育活動収入計	911,017
教育活動支出計	856,167
教育活動収支差額	54,850
教育活動外収入計	3,958
教育活動外支出計	1,791
教育活動外収支差額	2,167
経常収支差額	57,017
特別収入計	5,775
特別支出計	14,286
特別収支差額	△8,511
基本金組入前当年度収支差額	48,506
基本金組入額合計	△68,811
当年度収支差額	△20,306
前年度繰越収支差額	△516,532
基本金取崩額	0
翌年度繰越収支差額	△536,837
(参考)	
事業活動収入計	920,750
事業活動支出計	872,244

- 【資金収支計算書】は、1年間のすべての収入と支出の内容を表し、当該会計年度における支払資金の額末を明らかにしたものです。
- 【事業活動収支計算書】は、経常的な収支(「教育活動収支」と「教育活動外収支」と臨時的な収支(特別収支)のそれぞれ三区間の1年間の事業活動収入と事業活動支出を表し、当該会計年度における収支均衡状態を明らかにしたものです。
- 【貸借対照表】は、当該会計年度末における財政状態を明らかにしたものです。

オープンキャンパス

Open Campus 2017

事前申込不要!!

本学のオープンキャンパスは年 3 回。受験をお考えの高校 3 年生はもちろんですが、本学に興味をお持ちであれば高校 1・2 年生、保護者の方も大歓迎です。プログラムは「体験授業」、「AO 入試対策講座」、本学教員による「入試個別相談会」など受験生にとって志望校選択に有用なメニューを取り揃えています。当日は本島内に送迎バスを 6 ルート走らせます。詳細については高校の進路相談室、本学公式ウェブサイトもしくは入試課までお問い合わせください。

第 1 回

6/3[±]
13:00~16:00

第 2 回

6/24[±]
13:00~16:00

第 3 回

7/15[±]
13:00~16:00



大学見学

百聞は一見にしかず。大学の全体像から細部まで静かな環境で話しを聞きたい方のためにご用意しているプログラムです。ひとりからご友人のグループまでと小規模人数での対応となります。

日時、メニューは事前相談で調整のうえ柔軟に対応いたします。

(例)本学スタッフによる「施設見学」、「学科説明」、教員による「模擬授業」など

